78 78期リレーエッセイ

泥臭く、一歩ずつ



会員　上平　華

1　はじめに

会員の皆様、はじめまして。78期の上平 華（かみひら はな）と申します。

修習地は東京（当会）で、弁護修習でお世話になった弁護士の方々や教官、友人に恵まれたおかげでとても楽しい修習生活を送ることができました。現在は一般民事を取り扱う事務所で勤務しております。

このたび、このような貴重な機会をいただいたので、いつまでも私自身が初心を忘れないようにという思いも込めて、私が日々意識していること、弁護士を志したきっかけから実際に働いて感じたことについてお話しさせていただきたいと思います。

2　意識していること

私が日々意識しているのは、どんなときも人一倍粘り強く取り組むことです。

その考えの原点には、幼いころから大ファンであるヤクルトスワローズの存在があります。

ヤクルトは、強豪球団である読売ジャイアンツが同じ東京にあるため、いわゆる「弱小球団」と言われることもありましたが、そうした中でも泥臭く、一つ一つのプレーに懸命に取り組んだ結果、数年に一度優勝する姿に、強く惹かれてきました。

そして、結果がすぐに出なくても、目の前のことに真摯に向き合い、諦めずに積み重ねることは、私自身の受験生活にもつながっています。私は、司法試験に5年目でようやく合格し、順位は1592人中1591位と、決して順調といえない結果でしたが、それでも最後まで粘り続け合格したという経験は、今の自分を支える力になっております。

3　弁護士を目指したきっかけ

私が弁護士を目指したきっかけは、高校1年生のときに交通事故に遭ったことでした。

居眠り運転の車にはねられ、骨盤骨折という怪我を負い、治療や生活の不自由さに苦しむ中で、相手方の保険会社から威圧的な対応を受け、両親も大変な思いをしていました。その姿を見て、なぜ被害に遭った側がさらに苦しまなければならないのかと強い疑問を抱いたことを今でも覚えています。

その経験から、理不尽な思いをした人に寄り添い、がむしゃらに働いて、私たち家族のような思いをする人を一人でも減らしたいと思うようになりました。

4　実際に働いてみて感じたこと

しかし、実際に弁護士として働き始めてみると、自分の想像していたものとかけ離れており、最初の1、2カ月は、依頼者のために何をすればよいのか全く分からず、新しい事件が来るたびに恐怖を感じ、正直弁護士業を辞めたいと思ったこともありました。

それでも、経験を重ねる中で、まずは自分なりに何が問題なのかを考え、そのうえで同じ事務所の先輩方にたくさん質問をする、という姿勢を身につけたことから、現在は、以前よりも落ち着いて依頼者のお話を伺えるようになり、少しずつではありますが、弁護士として前進できているように感じます。

もちろん、まだまだ力不足を痛感する場面は多くあります。けれども、私は粘り強さには自信があるので、分からないことから逃げず、泥臭く、一つ一つの事件に真摯に向き合う姿勢を今後も大切にしていきたいと思います。

5　終わりに

この先も、事務所の先輩方や所属する会派の皆様とのご縁を大切にしながら、日々学びを重ね、できる限り長く弁護士として仕事ができるよう努力してまいります。